

OPEN
おーぶん
DIALOGUE

オープンダイアログでは、協働推進センターに寄せられた団体・個人からの相談・提案・課題の内容をもとにテーマを設定し、対話の場をつくることで、これからの協働の取組みに向けた新たな視点、多様な視点の獲得や、プロジェクトの推進に取組みます。

VOL.1

「他者の感覚・視点を取り入れることで
見えてくるもの」

新しい価値やアイデアを生み出す
インクルーシブ・ダイアログWS

オープンダイアログの第1回目は、株式会社19のインクルーシブメディアーター(※)をファシリテーターに迎え、社会課題への新しいアプローチを体感します。障がいのある方々は日々社会課題に直面しています。そうした障がい当事者をインクルードし対話していくことで、自らでは得難い「他者の感覚」を体感し、新たな視点の獲得や「多様性」「異なることの価値」への気づきを得ます。
※ 障がい当事者であり、健常者とのコミュニケーションを通じて、価値創造を促す仲介者。企画立案やワークショップなどに精通している。

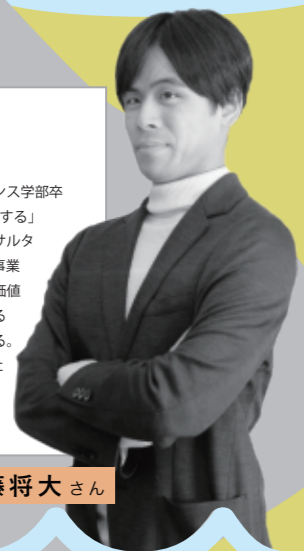
エントリーはこちら



2.20 SAT
13:30-16:45

株式会社19
代表取締役社長

東京工科大学コンピューターサイエンス学部卒業。「人と社会のつながりをデザインする」をコンセプトに、企業への事業コンサルティング、「STUDIO19」の運営などの事業を展開。今まで埋もれていた課題や価値を発見し、人と社会が楽しくつながるための新たなビジネスを創出している。大学在学中の2015年2月に株式会社アーチャレジー(現:株式会社19)を設立し、代表取締役社長に就任。



安藤将大さん

VOL.2

「異なる感覚・視点を持つ他者と
自己へのまなざし」

どうしても違ってしまう?!
「まねっこワークショップ」

オープンダイアログの第2回目は、講師が描いた絵を真似しながら自身も絵を描くことで、様々な感覚の違いを実感するワークショップを実践。講師役となる知的障がいのある藤原直美さんが、果たしてどのように対象を捉え、表現しているのか。

ワークショップを通じて、自身とは異なる感覚・視点を持つ他者と自己への気づきを得るとともに、対話の場を通じて、インクルーシブな実践への理解を深めていきます。

認定NPO法人STスポット横浜 事務局長/
神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

1984年東京生まれ。2008年STスポット横浜入職。文化施設や芸術団体と学校現場の連携プロジェクトを担当。2020年4月より、神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターの運営を開始。芸術文化分野での中間支援のあり方について、模索している



田中真実さん



中畝常雄さん

中畝治子さん

「ココロはずむアート展」実行委員会
夫婦ともに東京藝術大学日本画科出身。横浜北部3区の通所施設で働く障がい者の方の作品を取り上げた「ココロはずむアート展(2011年〜)」の実行委員を務める。著書:重症心身障がいのある息子さんと家族がともに過ごした日々をまとめた「ひげのおばさん子育て日記」(出版社:フェニックス)等

NPO法人カブカブ カブカブ川和

似顔絵作家。ボスカなどカラーペンを使ってカラフルな人物画、ペットのイラストなどを描いています。最近は布製品作りにもはまっています。「ココロはずむアート展」では「作家と一緒に制作しよう」でのワークショップで講師を務めています。

藤原直美さん



(左) 藤原さんの作品
(右) 中畝常雄さんの作品



3.21 SUN
13:30-16:45

会場・お問い合わせ

市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体
横浜市市民局市民協働推進課
〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町6丁目50-10
横浜市庁舎1階

平日 9:00-20:00 TEL: 045-671-4732
土日祝 9:00-17:00 FAX: 045-223-2888

<https://kyodo-c.city.yokohama.lg.jp/>

ACCESS
みなとみらい線「馬車道駅」1C出入口直結
JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩3分



横浜市
市民協働
推進センター



横浜市
市民協働
推進センター

様々な主体の交流・連携から新たな知を生み出す
3つのイベント

創造対話
ラボ &
ラボ

DIALOGUE &
CREATION
LABO

Real & Online



01

みらいリンクフォーラム

みらいリンク
FORUM
フォーラム

VOL.1

「みんなで育て、つくる。
チャレンジできる場所」

VOL.2

「地域住民と協働でつくる
コミュニケーションの
ある暮らしとは」

02

トライアルスタジオ

TRIAL
トライアル
STUDIO

VOL.1

「できることから始める
ゼロ・ウェイストな毎日」

03

オープンダイアログ

OPEN
おーぶん
DIALOGUE

VOL.1

「他者の感覚・視点を取り入れることで
見えてくるもの」

VOL.2

「異なる感覚・視点を持つ
他者と自己へのまなざし」

横浜市
市民協働
推進センター



会場:

横浜市市民協働
推進センター

横浜市庁舎1F/スペースAB
※イベント配信も
行います!



対話&創造ラボとは？

様々な主体の交流・連携から新たな知を生み出す

一人ひとりの良さが活かし合える暮らしやすい地域や社会を目指して、
新たな手法の創発に向けた「対話&創造ラボ」では、多様な主体による対話と創造の場をつくります。

協働の今と未来を学ぶ場「みらいリンクフォーラム」 01

みらいリンク FORUM

フォーラム

「みらいリンクフォーラム」を通じて、これからの課題解決に向けて新たな手法創出の種が見つかり、みらいにつながる場をつくります。特に、横浜市の地域で直面している、また今後直面する課題に対して、その解決に向け先端的に進められている取組で、新たな手法の創発につながる可能性のある事例等を学びます。

VOL.1

「みんなで育て、つくる。 チャレンジできる場所」

下北沢・ボーナス・トラックが取り組む 不動産開発のあたらしいものさし

みらいリンクフォーラム第1回目は、2020年4月に下北沢で誕生した「ボーナス・トラック」から、開発を担当した小田急電鉄の向井さん、場のプロデュースと運営も行う小野さんのお二人にご登場いただきます。

「ボーナス・トラック」は下北沢駅と世田谷代田駅の間にあり、複々線化と地下化による路線跡地を活用した下北線路街の施設の1つ。飲食店や物販店に加えシェアキッチンや広場といった様々な機能を盛り込んだ商業施設です。一般的な開発では、建ぺい率や容積率を最大限使い、大きな建物を造り賃料を設定、収益化を目指すのが普通ですが、今回「ボーナス・トラック」では、個人事業主でも借りやすい賃料を設定、店を始めやすい面積にし、開発にかかる工事は賃料から逆算して算出する手法を取ったそう。なぜ、そのような形で開発を行ったのか？これまでにないものさしを軸とした不動産開発の背景、企画からこれまでのプロセスにおける協働の道のりを探ります。



向井 隆昭さん

小田急電鉄株式会社
生活創造事業本部 開発推進部 /
下北線路街 運営事務局 マネージャー
1990年生まれ。立教大学経済学部卒業後、2013年に小田急電鉄株式会社に入社し、主に小田急沿線の不動産開発業務に携わる。2015年より下北沢エリアの線路跡地「下北線路街」の開発プロジェクトを担当し、開業後の物件の管理運営にも携わりながら下北沢エリアのまちづくりに取り組む。



エントリーはこちら



12.17 THU
18:30-20:30

下北沢のまちづくり会社 散歩社
代表取締役 / greenz.jp ビジネスアドバイザー

1984年岡山県生まれ。中央大学総合政策学部卒。ソーシャルデザインをテーマにしたウェブマガジン「greenz.jp」を運営するNPO法人グリーンズの経営を6年務めた後、同法人のソーシャルデザインやまちづくりに関する事業開発・再生のプロデュース機能をO&G合同会社として分社化、代表に就任。greenz.jp ビジネスアドバイザー。



小野 裕之さん

VOL.2

「地域住民と協働でつくる コミュニケーションのある暮らしとは」

金沢区・八景市場 食で繋がる街のプラットフォーム

第2回目は、八景市場の皆様にお越しいただきます。八景市場は、7戸の apartメントで「コミュニケーションのある暮らし」を住民と協働しながらデザインする為の、開かれたキッチン付きシェアラウンジを有する施設です。シェアラウンジは一般の方々にも開放し、入居者だけでなく、利用者を広く迎える地域との新たな接点です。時に入居者が食卓を囲み、ワークショップなどのイベントや市場などが開催され、活用方法は色々。

豊かなつながりを生み出しながら、新しい金沢のライフスタイルを創出。パブリックスペースの可能性を考える機会として、八景市場の皆様にお話を伺います。働きながら住まい、地域と共に成長する場として、土地に根付いた思いを継ぐ八景市場の魅力を探ります。



平野 健太郎さん



八景市場
フードコミュニケーター
1977年生まれ。生まれも育ちも横浜市金沢区。学生時代国際ワークキャンプというボランティア活動を通じ、地域内外のコミュニケーションを軸に日本全国の色々なまちづくりに関わる。2015年に父の経営するアパートが人口の緩やかな減少に伴い空室率が高くなっていく事に対し、個人力だけでは限界がある事を痛感。新しい賃貸住宅の在り方「コミュニケーションのある暮らし」を軸としたアパートメント「八景市場」を2019年1月からオープン。かつて同じ土地で街の中心として機能した「釜利谷日用品市場」のリデザインに親子2代で挑む。



エントリーはこちら



1.29 FRI
18:30-20:30

TRIAL トライアル STUDIO

「トライアルスタジオ」では、横浜市と関わりのある企業が、多様なセクターからのアイデアを取り入れ、社会課題や地域課題の解決に向けた事業開発などにつなげる機会をつくります。

VOL.1

「できることから始める ゼロ・ウェイストな毎日」

ゼロ・ウェイスト・ジャパンとパタゴニア横浜・関内ストアが
チャレンジする、ゴミを出さないお店づくり

横浜市でもココハマ3R夢プランの1つとしてゴミの削減については継続的に取り組んでいる中で、市内でも、市民の皆様の意識や行動、つながりによって地域で様々な取り組みが進められています。現在では分別が進む一方、燃やすごみの大幅な削減は難しくなっているのが現状です。これから大事なのは、市民一人ひとりが循環型社会について考え、自主的で自分らしい行動に移してもらうための取り組みが重要であり、ライフスタイルやビジネススタイルにおける変化の形を模索しながら、「横浜らしい循環型社会」に向けて、他分野連携などにより取り組んでいくが必要になってくるはず。トライアルスタジオの第1回目は、「ゼロ・ウェイスト」実践の機会を共創する一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパンの活動紹介と、アパレル店舗のパタゴニア横浜・関内ストアで取り組む、アパレル店舗ならではの「ゴミを出さない」チャレンジをピックアップ。何から始めるといいのか、どんな準備が必要なのか？気になるあれこれをお伺いします。



市原 壮一郎さん

パタゴニア横浜・関内
ストアマネージャー

茅ヶ崎市在住。ストアでのゼロ・ウェイストの取り組みを牽引し、2019年にアパレルゼロ・ウェイスト認証を取得。2020年に更新。

Refuse
Reduce
Reuse・Repair
Recycle
Rot



坂野 晶さん

一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン
代表理事

兵庫県西宮市生まれ。日本初の「ゼロ・ウェイスト宣言」を行った徳島県上勝町でNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミーの理事長として廃棄物政策に携わる。2020年から一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパンにて、国内外で循環型社会のモデル形成に取り組む。2019年世界経済フォーラム年次総会（通称ダボス会議）の共同議長。



増山 理人さん

パタゴニア横浜・関内
アシスタント・マネージャー

鎌倉市在住。横浜ストアのサステナビリティ担当として店内のゼロ・ウェイストに取り組む。



奥野 光久さん

一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン
スタッフ

東京都生まれ。2019年11月からゼロ・ウェイストアカデミーにインターンとして参画。エレン・マッカーサー財団のプログラムにも参加し、サーキュラーエコノミーとゼロ・ウェイストの知見を広げる。2020年4月から一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパンの総務/経理スタッフとして活動中。

エントリーはこちら



1.22 FRI
18:30-20:30